

レースっていいよね

- 第1回 - 「放浪のレース人生」の巻

北島三郎の歌に「男の俺が選んだ道だ〜」(by 暴れん坊将軍)なんて歌詞があったけど今の自分と妙にダブちゃってアレを聞くたびに涙が出ます。昔からレースは好きだったけど、まさかこんなにドブツリ漬かるとは当時想像もつかなかったなあ。僕なんかは完全に第2次ブームの人間で往年のドライバーとかマシンは知識だけ。今でも覚えてるのは小学生のクセに「スピリット・ホンダ」を応援していて、あの頃誰も知らなくて(自分もよく解らずに応援してたが・・・)寂しい思いをしました。でもあの当時は乗用車の改造をすることに興味を持っていたから(from よろしくメカドック)レーシングカーは現実味が無かったんですね。その内にエフワンが完全中継され出して、親に見つからない様に夜中に目を爛々とさせて観戦してたのを覚えてます。(当時一般男子の関心事は11pmだったことを考えると既に道を誤っていたようだ)

ともあれ、国内有数の某レーシングカーコンストラクターに入社、設計、生産、メンテナンスといった基本を数多く学び、1997年度は僕とコンビを組んだレーサー、吉村誠司君がFormula-4 西日本チャンピオンに輝き一応の結果も残せたので前からの希望だった海外(英国)コンストラクターに行くことを決心、夢と不安をバックに詰めて旅立ちました。だって英語喋れない上に、普通は絶対に雇ってくれないもの。ところが現地の某〇〇 M's GB のボスが「しょうが無いなあ」と言いつつ気に入ってくれて、非合法ながら無事?働き始めたのです。有難いことに無茶苦茶忙しくて、ここでも色んなことを学ばせて頂きました。でも残念ながら帰国の日が来てしまい(まさか雇ってくれないと思ってたから帰りのチケット予約してたんだな)渋々別れを告げたのです。

帰国したものの日本で働く気力がせず、川辺でヴァイオリンの練習をしていたら電話が。「アメリカの梁川です」彼は単身 NASCAR レースを始めたばかり。「助けてくれない?」・・・そりゃ行くしかないでしょう!!場所はシアトル、地名は知ってても何処に有るか分からない。行きの機内でスチュワーデスさんにチケット見せて「僕、何処に行くんですか?」と聞くとどういふ訳だか笑われてしまった。ともかく米国で梁川のサポートを始め、マネージャー、プロデューサー、テクニカルアドバイザーとして超忙しい毎日。詳しくは www.RACERKZ.com にて。ところがそんな折、日本でも「違いの分かる男」の元で働くことになりました。ああ、こんな僕ってレース界の放浪者だわ。